

氏 名（本籍） ^{そん み ひょん} 宋 美 玄 （ 韓 国 ）

学 位 の 種 類 博士（医学）

学位授与番号 甲 第 621 号

学位授与日付 平成 27 年 3 月 12 日

学位授与の要件 学位規則第 4 条第 1 項該当

学位論文題目 Association Between Sexual Health and Delivery Mode

審 査 委 員 教授 紅林 淳一 教授 山田 了士 教授 植村 貞繁

論文の内容の要旨・論文審査の結果の報告

分娩様式などが産後の女性性機能に与える影響に関しては定説がない。学位申請者らは、分娩時の様々な要素が産後の女性性機能に与える影響を質問票を用いて調査・研究した。本研究は、当大学・同附属病院倫理委員会の承認を得て行われた。2011 年 11 月～2013 年 6 月に当大学附属病院または関連病院で出産し、研究への参加の同意が得られた母親に対し、産後 6 か月時に質問票（女性性機能に関する質問票 SFQ28 の日本語版）を送付し、無記名で回答を得た。分娩時の様々な要素と SFQ28 の各ドメインのスコアとの関連を多変量解析等を用い検討した。674 名の母親に質問票を送付し、502 名（75%）から回答を得た。そのうち解析が可能であった 435 名を分析対象とした。対象者の平均年齢は 33.2 歳、分娩時妊娠週数の平均は 39.2 週、出生体重の平均は 3,023g であった。子宮収縮剤不使用の経膣分娩（グループ A）が 65%、子宮収縮剤使用の経膣分娩（B）が 19%、機械分娩（C）が 5%、選択的帝王切開（D）が 5%、緊急帝王切開（E）が 6%であった。これら 5 群間において、結婚年齢、母体年齢、世帯収入、学歴などに有意の差は認められなかった。D 群では、分娩時の妊娠週数や出生体重が有意に少なかった。性機能の評価に関する解析結果：1) 産後 6 ヶ月時点で女性性機能が正常であった割合は極めて少なかった、2) 母体年齢は SFQ28 のパートナーシップ以外の全てのドメインと負の相関を示した、3) 経膣分娩群に比べ、機械分娩群のパートナーシップドメインのスコアが有意に高かった、4) 会陰に傷がなかった群に比べ、会陰切開群は有意に興奮ドメインのスコアが悪かった、5) 分娩時の夫の立会の有無と産後 6 か月時のセックスレス率に相関は認められなかった。以上の検討結果から、1) 分娩時の会陰切開はルーチンに行うべきではない、2) サンプルサイズや調査のタイミングに限界があるため、更なる検討が必要であると

の結論となった。

学位審査会（最終試験）の結果の要旨

学位申請者から、以下の内容が報告された。研究の背景：妊娠・分娩に伴う女性性機能の低下と日本の少子化への影響など、目的：分娩形式や会陰切開などが女性性機能に与える影響を検証する、方法：対象女性、質問票、統計学的処理等、研究結果：とくに分娩様式や会陰切開が女性性機能評価スコア SFQ28 の各種ドメインに与える影響、結果の解釈と考察：機械分娩、会陰切開などが SFQ28 を指標とした女性性機能に与える影響に関し、日本人女性を対象とした新しい知見が得られたこと。一方、出産前の SFQ28 のデータがないため、分娩に伴う影響だけを抽出できていないことなど研究の短所や限界に関しても言及された。さらに、「子供への愛着を評価する質問票」などの追加的検討が行われていることが紹介された。審査員から、質問票として用いた SFQ28 の科学的合理性（海外で開発された質問票の日本語翻訳版であり、他施設において妥当性は検証されていることが確認された。しかし、日本人女性に対する質問内容や回答の選択肢などの改良が必要なことが論議された。）や日本人女性に使用した場合の有用性の限界（日本人女性の質問に対する反応の特殊性など）が浮き彫りとなった。また、会陰切開の臨床的な実施状況や分娩時の会陰障害の程度の評価について、SFQ28 の各種ドメインに与える影響に関する論議がなされた。審査員からの多くの質問に対し、適確で冷静な返答がなされた。以上、学位論文の内容と質（英文誌にアクセプトされている）、審査会におけるプレゼンテーションと質疑応答の結果から、研究領域に関する十分な知識と今後の研究を遂行する十分な能力があること、さらに学問に対する真摯な態度も持ち合わせていることが確認された。従って、審査員の合議の結果、本申請者は専攻科目ならびに関連分野の学識と研究遂行能力を有すると判断し、合格と判定した。